

連載：第 37 回 亀ちゃんにも言わせてよ！

大人も変じゃない？

最近の事件に感じたこと

耐震強度偽装事件で偽装をおこなった建築士が逮捕前に国会で証言したのを TV で見ていて、得体の知れないものを見たような薄気味悪さに似た違和感を覚えました。それは、彼があまりに無表情で、しかも淡々とまるで他人事のように自分がしたことを話していたからです。「この人は、自分やったことの重大さが分かっているのだろうか。申し訳ないといっているが、本当に反省の気持ちがあるのだろうか。」などと感じました。メディアの情報によれば、ずいぶん苦労した青少年時代を経て一級建築士になったようです。しかし、一級建築士になったもの思うようには収入がなく施主や施工会社からのコストダウンの要求を呑まざるを得なかったと本人は言っているようです。また、配偶者の病気による出費が事件への関与を促したのではないかと報じられていました。そうしたなか、本人の心のなかには外からは計り知れない色々な葛藤があったのだらうと思います。なのに、国会や記者の前で事件について語る彼にはそういったものが全く感じられなかった。強烈な葛藤のなか、してはいいなと知りつつそれをし、秘密にしていたことを吐露するとき、行った事実とともに心情(葛藤の内容)もいっしょに表出するものだと思っていました。表出の仕方は、むせび泣くように激しく表す人もいれば、訥々と語りながら表情を曇らせたりゆがめたりする人もいたり人それぞれです。いずれにしても、聞いている側見ている側にそのことが何となくでも伝わるものだと思います。だが、この建築士からは彼の思い(心)が全く伝わってきませんでした。そして、彼自身にリアリティーを感じられませんでした。彼自体がヴァーチャルであるかのように。

彼だけかな？

上述建築士のようなタイプの人には他にいないのでしょうか。このところ少年事件が起こるたびに、今の少年たちは行動や考えがヴァーチャル的であるといった論調の評論が多くだされます。もしそうであるならば、今後、行動や考えにリアリティーを感じられない大人が増えることになるでしょう。

しかし、もしかしたら、すでにそのような大人(社会)が広く存在しているのかもしれない。そんな視

点で最近のニュースを振り返ると、JR 西日本で起きた脱線転覆事故が気になりました。記者会見で取締役が頭を深くと下げていましたが、事故原因となった無理なダイヤの改正や被害者・遺族への対応は不十分なようですし、さらにその後の職員の不祥事もいくつか報道されました。JR 西日本の取締役はあの問題を現実的に考え対応(行動)しているとは思えません。取締役にとっては現場の職員の問題であり他人事であるが、たんに立場上「そうしなければならぬから頭を下げた」のでしょうか。または、取締役たちが記者会見で頭を下げたのは「ここではそうしなければ次に進めないから」ということだったのでしょうか。もしそうであるなら、ゲームのなかの障害をクリアするのと同じことだと思います。まさにヴァーチャルですよ。私たちは、悪いことをしたらきちんと頭を下げて謝るものと子どもの頃から言われていると思いますが、それは謝罪と反省の気持ちを相手に伝えるはじめての一步であり、その後の対応(行動)が本当の意味での謝罪や反省を表すものです。中身のともなわない儀礼的な謝罪の態度や言葉は現実社会では意味がありません。昨今は何でもマニュアル本が出ています。こんな時はどうするという類の本です。こういった本は便利だけれども、肝心なことは、こういう事態にはこう対応するとか、相手がこう出てきたらこっちはこうするという型を暗記するのではなく、そのときの自分の気持ちを正直に伝えたり、目の前の問題に誠心誠意取り組むことですよ。でも、いつのまにか、こんな時をこうするものだが常識のようになり一人歩きする。そして、考えることもなしに型どおりに行動するだけの人が増えていく。言い換えると、ゲームのコントローラーで操作されているゲームキャラクターのような現実感の感じられない人間が増えていく。そんな世の中になりつつあるのでしょうか。

みなさんは、どう思いますか。私の思い違い、考え過ぎなのでしょう。最近の子どもたちは...、今時の若者たちは...、と言われて久しいですが、ここで、最近の大人たちは...と考えてみませんか。子どもだけが変じゃない。大人も変かも。でも、みんなが変なら、これが普通？

亀山憲一 [会員・フリーで活動中の法学研究者
(犯罪学・刑事法)